# 第10回国際エイズ／ＳＴＤ会議

国際エイズ学会，ＷＨＯ，エイズ予防財団をスポンサーとして第10回国際エイズ／ＳＴＤ会議（The Tenth International Conference on AIDS／International Conference on STD）が，1994年８月７日から12日まで横浜市のパシフィコ横浜コンファレンスセンターにおいて開催され，当研究所からは高橋重郷（人口動向研究部），稲葉寿（人口構造研究部）の二名が参加した．本会議はアジア地域では初の開催であると同時に，これまで毎年開催されていたものが今後は隔年開催となるという点で，エイズ流行の10年を回顧し，今後の研究動向を総括する記念ともなるべき大会であった．米仏間の国際問題にまで発展したＨＩＶ発見をめぐる論争も，今回第一発見者としては仏パスツール研のモンタニエ（L. Montagnier, Institut Pasteur）博士のグループ，またエイズの要因ウィルスとしての同定・確立をおこなったのは米国立ガン研究所のギャロ（Robert C. Gallo, NCI）博士のグループであるとして決着がついた．また一般的な話題として，ＨＩＶに感染しながら10数年にわたってエイズを発症しない「長期生存者」(long-term survivor）の存在が報告され，エイズ治療に手がかりを与えるものとして注目された．

エイズの流行による死亡率の上昇は，ＨＩＶの潜伏期間の長さの故にその影響が長期化するため地域の人口構造を変動させる可能性がある．また一方，性的行動などが人口学的変数に強く依存することから，感染過程がホスト人口の人口学的構造によって左右されると考えられる．従ってエイズの流行過程を理解し有効な予防政策を評価していくためには人口学的変数を考慮した疫学モデルを開発していく必要がある．本会議では特に人口学的・疫学的モデルによるＨＩＶ流行の将来予測に関連するものとして以下のセッションが組織され，６本の報告がなされた．当研究所の高橋重郷は米国センサス局の Karen A. Stanecki とともに議長を務めた．

Abstract Sessions Track C: Epidemiology and Prevention,

AS 31 : Modeling, Scenario-Analysis of HIV Projection

181C J. Chin, Estimation and Projection of HIV／AIDS in Asia

182C T. Brown and W. Sittitrai, Estimation of HIV Infection Levels in the Thai Population.

183C M. Morris, C. Podhisita and M. Wawer, Age-Matching in Sexual Partnerships and the Spread of HIV／AIDS in Thailand.

184C R.S. Hogg, S.A. Strathdee, K.J.P. Craib, M.V. O'Shaughnessy, M.T. Schechter and J.S.G. Montaner, Modeling the Impact of HIV Disease on Patterns of Mortality in Gay and Bisexual Men.

185C S. Tatsunami, J. Mimaya, T. Meguro, N. Fukuda, N. Yago and K. Yamada, Estimation of Average Life Time for Japanese HIV-1 Infected Hemophilia Patients.

186C A. Verdecchia and A. Mariotto, On the Effects of Age and the Susceptible Population on an Age, Period and Cohort Backcalculation Method.

また上記以外にも多くの数理モデルがポスターセッションにおいて発表された．筆者は報告 "Exponential Phase of HIV／AIDS Epidemic in Japan"（IPP Working Paper Series No. 20）をポスターセッションで展示した．周知のように国際エイズ会議は学術報告とは別に，ボランティアグループやＮＧＯによるエイズ患者・感染者への支援活動をアピールする場でもあり，会場内には多数のＮＧＯブースが用意され，サテライトシンポジウムも数多く組織された．しかし横浜会議はそれまでのエイズ会議と異なって，大きな混乱もなくスムーズに運営され，エイズをめぐる議論や環境が成熟したものとなってきていることを感じさせた．

ＷＨＯは1994年半ばにおける全世界における累積ＨＩＶ感染者数は1700万人以上に達し，とりわけ今後の感染拡大がもっとも危惧されるアジア地域だけで累積感染者数はすでに250万以上と推定している．従って，日本はいまだに患者数は非常に少ないといえるが，今後の動向は予断を許さないものがある．エイズと人口動態の相互作用は21世紀へかけての世界の主要な人口問題の一つとなることは間違いなく，人口学者のこの分野での積極的な貢献が期待される．

（稲葉　寿記）